

2025年4月25日

令和6年度
自己点検・自己評価報告書

学校法人つくば文化学園
日本つくば国際語学院

自己点検・自己評価項目

実施責任者
日本つくば国際語学院
教務主任 岩崎 透

評価基準

5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない 2:取組を検討中 1:改善が必要

(1)教育理念・目的等

評 価 項 目	評価
学校の理念・目標は定められているか	5
育成人材像・特色などが明確になっているか	5
理念に基づいた人材教育が行われているか	3
理念と教育目標が職員や生徒・保護者に周知されているか	3
現状と具体的な取り組み及び課題について	
本校の「日本語を楽しく学び、日本を好きになってもらう」という教育理念のもと、教職員はもとより、非常勤講師も学生が楽しく日本語を学び、日本での生活が充実したものになるための日本語の指導を心掛けており、学校の理念・目標に関しては、組織としての取り組みが達成ができていえる。	
しかしながら、体系的な人材育成研修体制や、教育理念の共有などに課題があり、前者に関してはOJT 中心であること、後者に関しては学生からの視点では暗示的なものになっている点が問題点としてあげられる。今後体系的な研修制度や、明示的な共有を実施していきたい。	

(2)学校運営

評 価 項 目	評価
運営方針は定められ、職員に周知されていて実行しているか	4
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
中長期的に学校の予算・収支計画は有効かつ妥当か	4
運営組織や意志決定機能が確立され、効率的なものになっているか	3
人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	5
学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能は整備されているか	3
危機管理体制及び施設・設備は教育上の必要性和学生安全確保に十分対応できるよう認定日本語教育機関認定基準に基づき整備されているか	5
現状と具体的な取り組み及び課題について	
認定日本語教育機関認定基準（令和五年文部科学省令第四十号）をもとに、本部長が本社と定期的に相談しながら策定、運営をしている。運営方針の周知は常に迅速になされているが、現在教務主任、業務課長が就任から1年未満の間もない状況であることから、効率的な運営がなされているかという観点では、まだ改善の余地があると考えられる。	

賃金については、常に人材市場の動向、労働市場の動向をチェックし、平均的水準を上回る金額に設定しているものの、一人一人の労働負荷に関してははまだ改善できる余地があり、これは上述した効率的な運営とも密接な関連性がある事柄であるため、こちらもまた発展途上の状態にあると言えるだろう。加えて、現状を客観的に評価するアンケートなども未整備であるため、今後この点を重点的な改善事項としていきたいと考えている。

一方で、筑波大学の養成講座研修生の授業見学や、近隣高等学校の異文化理解教育を受け入れており、地域社会等に対するコンプライアンス体制は達成できていると考えている。

さらに、危機管理体制については学生の安全を最優先に考え、避難訓練の実施、避難場所の掲示、連絡網の作成を行い教職員と学生が共に防災の意識を強く持つてもらうように取り組みを行っており、この点についても大きな問題はないといえるだろう。

(3) 教職員

評 価 項 目	評価
教育理念・目的が教職員間で共有されているか	5
教育目標を達成するための取り組みがされているか	4
教職員の評価を行っているか	2
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3
現状と具体的な取り組み及び課題について	
教務主任と常勤講師が中心となり、非常勤講師と連携しながら目標達成に日々取り組んでいる。本校の教育目標は、学生全員が自身の進むべき道を見つけ、社会的存在として自律的に生活できるようにする力を身につけてもらうことにある。この目標を達成するべく、言語的知識の指導はもとより、言語運用能力を高められる授業の実施などを積極的に行っている他、進路指導に関しては、漏れなく、遅滞なく執り行われるよう、毎週担任が学生とのカウンセリングを実施するなどして自律学習のサポートを行っている。 教職員の評価については、評価される項目が暗示的であること、定期的なフィードバックなどが実施できていないことから、今後優先的に取り組まなければならない課題であると考えている。 能力開発のための研修は、期初に非常勤講師と合同で教務主任が研修を実施しているが、頻度を高める必要があると言えるだろう。	

(4) 教育活動

評 価 項 目	評価
進学のためのカリキュラムや教育方法の工夫・開発が実践されているか	5
学習理解の到達度の確認、成果の評価、卒業のための認定は適切になされているか	3
教育目標に適合した教材や機器が使用されているか	5
各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか	3
目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか	4
現状と具体的な取り組み及び課題について	
進学のためのカリキュラムの工夫を各レベルで様々な形で実施している。具体的には、上級クラスでは学生間でレベル差があることを活かし、ピアワークが多くなされる活動中心の教材を採用し、出版社の指導をもとにカリキュラムの策定をし、常勤講師のみならず、非常勤講師と連携することで、言語的知識や言語運用能力はもとより、社会人技術力、社会人基礎力なども高められるよう常に工夫を凝らしている。 近年では、インターネットを活用した授業が不可避であることを鑑み、Wi-Fi を強化するなどの取り組みも実施しており、教材や機器の問題には常に真摯に取り組んでいると言えるだろう。一方で、日本語試験の認定率向上のための取り組みや、成果の評価、卒業のための認定が課題となっている。前者に関しては認定率が徐々に下がっているため、向上させるためのカリキュラム上の工夫が必要であり、後者に関しては、パフォーマンス評価がなされていないため、ルーブリックなどを導入し、評価体系を整えることが喫緊の課題といえるだろう。	

(5) 学生支援

評 価 項 目	評価
進学に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5
学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
学生寮、学生の生活環境への支援は行われているか	5
経費支弁者や、個人で学生を紹介してくれた人と適切に連携しているか	3
現状と具体的な取り組み及び課題について	
進学に関しては、各期末のオリエンテーションで早期の進学のための活動を促しているほか、希望者が多い分野への学生の引率、外部の進学説明会への参加を、随時積極的に行い、各学生の進路に関する詳細な情報をクラウドで管理し、学校全体で共有している。 日本留学試験、大学院進学希望者向けの取り出し授業なども実施しており、学生全員が進路を達成できるよう、漏れのない体制構築を心掛けていると言えるだろう。 経済的なサポートとしては、支払いが難しい学生に対し猶予期間を与え、支払い計画を立てるための指導を実施するなどしているほか、寮などの生活環境の支援も実施している。	

(6) 学生募集と受け入れ

評 価 項 目	評価
学生の受入れ方針は定まっているか	4
学生募集活動は適切に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正しく伝えられているか	3
入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3
学生定員設定は適正であり、適切な在籍者数になっているか	5
現状と具体的な取り組み及び課題について	
学生の受け入れについて、150 時間前後の学習経験がある学生かつ、真摯に学ぶ姿勢が認められる学生を受け入れることを方針としているが、オンラインでの面接でこの点を見極めることは難しく、今後取り組んでいく必要のある課題と言えるだろう。 一方で、学生募集活動は信頼のおける仲介業者との連携を高めているほか、海外へ積極的に募集活動に赴くなどしており、発展の余地はあるものの、良好な状態であると言えるだろう。 また、学生数は現在約 1 4 0 名で、告示校の基準内の適切な在籍者数となっていると言えるだろう。	

(7) 在籍管理と生活指導

評 価 項 目	評価
学生の生活指導責任者及び入管事務担当者が特定され、学生に周知されているか	5
我が国の法令を遵守させるための指導は行われているか	5
学生が母国と日本の文化の違いを理解するための指導やアドバイスが行われているか	4
入国・在留関係の管理や指導と支援が適切に行われているか	4
常に学生の最新情報を把握しているか	5
現状と具体的な取り組み及び課題について	
学期ごとに事務と教務が合同でオリエンテーションを行い、生活指導の徹底を図っている。また、校内で警察講話を実施し、日本の法律を始め交通ルールや生活全般に関する指導も行っている。学生の最新情報に関しては SNS や面談を通して最新情報の把握に努めていることに加え、定期面談を実施することで、学生の最新状態を把握するようにしていることから、達成できていると言えるだろう。	

(8) 安全・危機管理

評 価 項 目	評価
施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
感染症発生防止・発生時の措置を定めているか	4
防災に対する体制は整備されているか	4
災害時に対する避難訓練を定期的実施しているか	4
災害時の避難経路、方法、場所を定めているか	4
現状と具体的な取り組み及び課題について	
防災に対する備えとして、避難訓練を実施し、災害時の避難場所の確認、また自宅から避難場所までのルートを確認させるなどしている。災害に備え備品を購入しており、災害発生時の教職員の役割は定められているが、教職員が災害時に円滑に動けるよう訓練が必要であると言えるだろう。	

(9) 財務

評 価 項 目	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	5
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5
財務について会計監査が適切に行われているか	5
財務情報公開の体制整備はできているか	5
現状と具体的な取り組み及び課題について	
財務関連については母体である学校法人ホームページ上に公開し、適切に管理・公開している。	

(10) 法令等の遵守

評 価 項 目	評価
法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5
個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	5
自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	5
自己点検・自己評価結果を公開しているか	5
現状と具体的な取り組み及び課題について	
法務省と入国管理局の運営基準をもとに、適正な運営を行った結果、昨年に引き続き「優良校」になることができた。個人情報の取り扱いには職員会議などで十分注意するよう確認している。自己点検・自己評価の公開に関してはホームページ上で公開している。	

(11) 社会貢献

評 価 項 目	評価
学生の教育資源や施設を活用した社会貢献に努めているか	5
学生のボランティア活動を奨励・支援に努めているか	3
現状と具体的な取り組み及び課題について	
つくば市国際交流協会主催の「まちなか音楽祭」や「つくばフェスティバル」などに積極的に参加している他、近隣高校の異文化理解授業の受け入れなどを実施しており、社会貢献に対して学校としての取り組みは達成できていると言えるだろう。 一方、学生のボランティア活動等については特に学校として働きかけはしてはならず、任意となっている。	

(12) 総括

日本語学校の国家資格化に伴い、様々な制度変更の転換期にある中で、カリキュラムを中心に様々な変更を実施していかなければならない状況ではあるが、無闇に修正、あるいは改変を加えることで、これまで培ってきた学生への指導の在り方、学生からの信頼、効率的な運用などが失われてしまい、本末転倒にならないよう留意しなければならないといえるだろう。

しかし、認定日本語教育機関として今後日本語教育の一翼を担っていくためには、初心に帰り、学校全体で日本語教育あり方を振り返り、挑戦していくことが必要であり、自己点検はこの点について再考するためのまたとない機会であるともいえる。

国の求める日本語教育の望まれる形について理解を深めるとともに、この度のような自己点検を通じて、自分達は何ができていて、何ができていないのかをよく見定め、失敗を恐れずに可能な限り挑戦していきたいと考えている。